

小学校 家庭科 指導の重点

福島県教育委員会では、「平成28年度学校教育指導の重点」という冊子を作成して、各教科の指導をすすめる際の重点について解説しています。
「家庭科」における、4つの指導の重点について紹介します。



1 家庭生活を総合的にとらえる視点から指導計画を改善する。

- (1) 目指す児童の姿を明確にし、中学校の技術・家庭科や他教科等との関連を踏まえ、題材を段階的に配列し、2年間を見通した大まかな流れ（ストーリー性）のある指導計画を作成する。
- (2) 題材や単位時間で育成する資質や能力を明確にする。
- (3) 家庭生活を総合的にとらえる視点から、家庭の生活と関連させながら衣食住などの内容を取り扱うよう題材を構成するなど、内容を組み合わせ、効果的に学習指導が進められるよう工夫する。

（下線は引用者。以下同じ）



例えばどういうことですか？



◇「調理における小・中学校の関連」では…

	小学校	中学校
調理内容	米飯及びみそ汁	基礎的な日常食の調理
調理に用いる食品	米、野菜、いも類、卵など (注意) 生の魚や肉は扱わない	魚、肉、野菜など
調理の技能	洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳、後片付け、ゆでる、いためる	煮る、焼く、炒める、など
用具類の取扱い	用具や食器の安全で衛生的な取扱い、 こんろの安全な取扱い	調理用具等の適切な管理

◇「家庭生活を総合的にとらえること」では…

小学校学習指導要領解説家庭編の第3節「B 日常の食事と調理の基礎」において、

内容の指導に当たっては、B(1)、(2)、(3)の項目を相互に関連させて取り扱うとともに、「A 家庭生活と家族」、「D 身近な消費生活と環境」などの内容と関連させるなどして、家庭生活を総合的にとらえさせるように配慮する。

とあります。

2 日常生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。

- (1) 自分の生活に結びつくような問題解決的な学習や実践的・体験的な学習活動の内容を工夫することにより、児童一人一人が、家庭生活への関心を高め、日々の生活の営みの大切さに気付くようにする。また、身近な生活の課題を見付けその解決を目指して考え工夫することを通して、自分の成長を自覚できるようにする。
- (2) 校内や家庭での賞賛や認め合う場を設定することにより、実践する喜びを味わうとともに、家族や近隣の人々とかかわる意味やよさについて実感できるようにする。
- (3) 児童の興味・関心や生活の実態に応じた学習ができるように内容の選択の幅を広げる。



どんなことに気を付ければ良いですか？

自分の生活の実態から課題を把握する場を設定すること、身に付けさせたい知識・技能を明確にすること、実生活に結び付いた学習を繰り返し効果的に取り入れること、本時のねらいと学習活動及びまとめとの整合性を図ること、などです。また、言語活動を充実させることによって、生活をよりよくしようとする実践的な態度をはぐくむことができます。



3 個のよさを生かし伸ばす指導と評価の一体化を図る。

- (1) 評価方法や場面を工夫した評価計画を作成し、毎時間の学習状況を継続的に把握して指導に生かす。

その場面における児童の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要です。なお、ペーパーテストは評価方法の一つとして有効ですが、その結果が目標に準拠した評価における学習状況の全てを表すものではありません。そこで、ワークシート等への記述内容で、「知識・理解」だけでなく「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」の評価にも活用することが考えられます。

*参考資料 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 家庭）」 H23 11 月 国立教育政策研究所 教育課程研究センター



4 安全指導・安全管理の徹底と、学習環境の整備を行う。

- (1) 予想される児童の活動を見通して、安全指導や安全管理に努める。
- (2) 現有施設設備の活用と計画的な整備・充実に努める。

上記の4つの重点を参考に、計画・授業・評価のPDCAサイクルを確立しましょう。



